

2021年度第1回町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会

議事要旨

- 【日 時】 2021年9月30日(木) 午後6時00分～午後7時10分
- 【場 所】 リモート
- 【出席者】 委 員： 松波委員(委員長)、奥委員(職務代理)、斉藤崇委員、
檜山委員、屋委員、斎藤之良委員
- 事 務 局： 町田市環境資源部 野田、
環境政策課 宮坂、池澤、土志田、井上、西、香山、藤森
- コンサルタント： 株式会社知識経営研究所
- 【欠席者】 委 員： 菅野委員、伏見委員、柴崎委員
- 【傍聴者】 な し

議題

1 2021年度外部評価の進行について(資料1、資料4)

一事務局から、今後のスケジュール等について説明を行った。

奥 委 員：資料4「町田市環境マネジメントシステム外部評価質問・意見シート」の提出日についてだが、10月7日までだとタイトで厳しいので、期限を10月11日頃まで延ばせないか。

事 務 局：10月11日までに延長させていただくので、その日までに提出いただきたい。

議題2 環境マネジメントシステムの実績報告について

(1) 2020年度外部評価意見への対応について(資料2)

一事務局から、説明を行った。

質疑なし

(2) 2020年度実績報告について(資料3)

一事務局から、説明を行った。

奥 委 員：温室効果ガス・エネルギーのところで、温室効果ガスの削減が進んだ理由として、排出係数が低い供給事業者との契約が進んでいるとの説明だった。確認させていただきたいのは、資料3の26・27ページに契約詳細がのっているが、随意契約をしているところについても、排出係数が代替値未満のところと契約するということが徹底されているという理解でよろしいか。

事 務 局：おっしゃるとおりのルールで徹底している。

奥 委 員：すべての施設において、代替値未満の事業所と契約がなされているということによろしいか。

事 務 局：例外がある。テナントとして、民間のビルに入っている施設など、自分たちで契約ができない施設については、代替値未満の会社と契約というルールが適用できない。それ以外の施設については、代替値未満の事業者から複数見積りをとって、契約をするようにしている。

奥 委 員：テナントとして入っている施設については、そもそも契約締結主体でないと思うので致し方ない。そのほかのすべての施設が代替値未満の会社と契約しているということが徹底されているのは、昨年度からの大きな進展である。また、約 370 施設のうち、一般競争入札になっているのが 27 ページに掲載している施設で、それ以外が随意契約ということによろしいか。施設数の内訳を教えてください。

事 務 局：おっしゃるとおり、約 370 施設のうち、27 ページに記載している施設が一般競争入札である。施設数の内訳は計算していないが、電気使用量の割合については、一般競争入札が全体の 40 パーセントで、残りの 60 パーセントが随意契約である。

奥 委 員：10 ページ、資源・廃棄物のところで、町田市土木・公園サービスセンターの数値に誤りがあったことについて、数値を遡及して把握できなかったということだったが、そもそもなぜ誤りだったということに気づいたのか。理由を説明いただきたい。

事 務 局：毎年度廃棄物の調査に対する回答ということで、施設のほうで、改めて廃棄物の量を把握した時に、昨年度把握できていなかったということが分かった。

奥 委 員：そもそも町田市土木・公園サービスセンターから出た廃棄物の数値が把握できていなかったということか。数値に誤りがあったというよりは、2019 年度はゼロになっていたということか。

事 務 局：完全にゼロだったかについては確認できていなかったが、おおむねそうである。

奥 委 員：詳細を確認いただきたいが、単純に 87 t 増加ではないということによろしいか。2019 年度は数値を把握していなくても、前の動向を把握していたとしたら、経年的な傾向はわかるはずである。そこに比べて一気に 87 t 増加するのがおそらくおかしいということがわかると考えられる。詳細を調べて報告いただきたい。

事 務 局：確認し、回答をさせていただきます。

奥 委 員：グリーン購入達成率について、学校によってばらつきがあるということであ

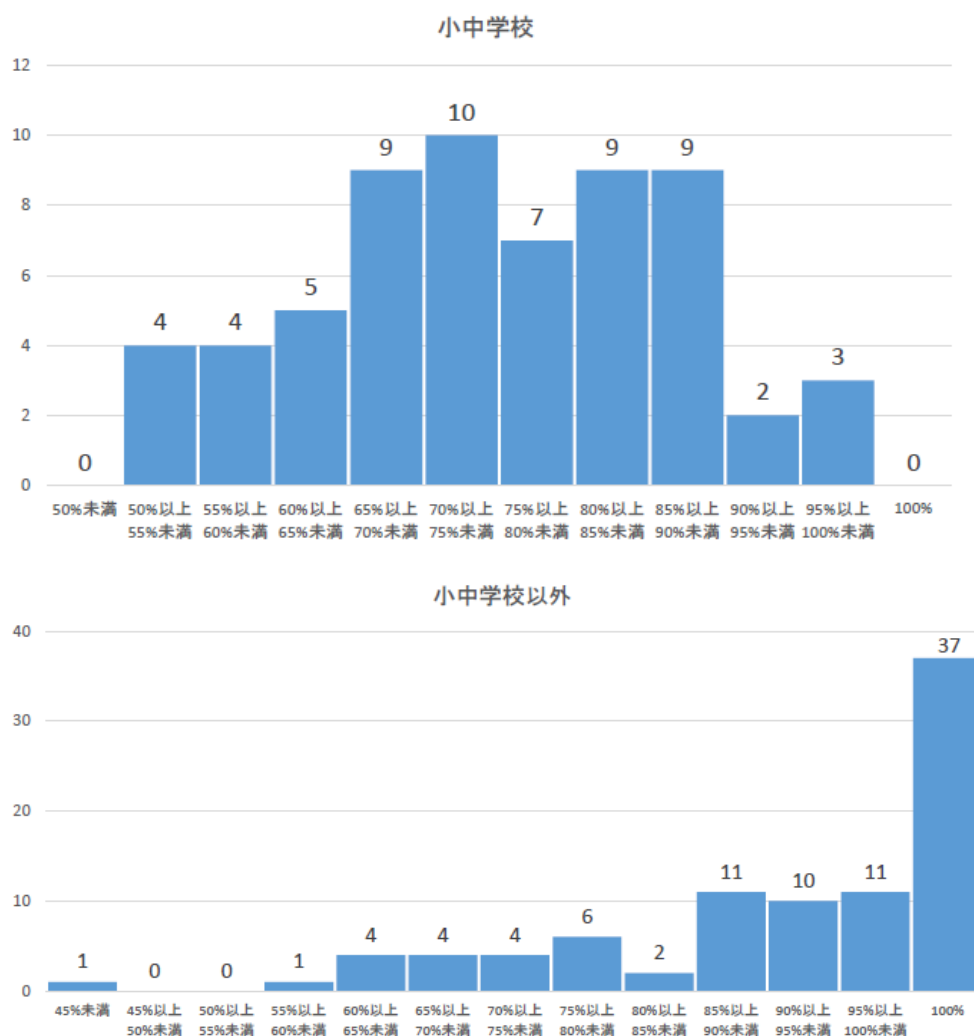
ったが、100 パーセントになっている小中学校もあるので、100 パーセントにしようと思えばできるが、価格や品質を優先して 100 パーセントになっていないということによろしいか。

事務局：品目によってはグリーン購入のものが市場に出回っていないということもある。

奥委員：そのことについては承知している。適合品が市場に出回っていない品目については除いて評価してはどうかという話が昨年度でたわけである。

一方で 100 パーセントになっている小中学校があるので、そういったところはそもそも適合品がないものは購入していないから 100 パーセントだったのか。その詳細を教えていただきたい（※）。また、やはりグリーン購入達成率を引き上げていくうえで、グッドプラクティスを小中学校の中で水平展開していくことが重要かと思ったところである。そのへんの情報共有がなされる場があるのか確認させてほしい。

※ 事務局より：小中学校については、100%達成の学校はなく、95%以上 100%未満の学校が 3 校ありました（下記のグラフのとおり）。



事務局：今年度9月に内部環境監査を行っており、監査員が小学校に行きヒアリングなども行ってきたところである。数値からだけでなく、学校によってグリーン購入に対する意識のばらつきがあると、監査員からも報告があった。購入する事務を行っている人などの意識が学校によってばらつきがある。監査員からも、意識が高い学校についてはモデル校のような形でほかの学校にも共有したらいいのではと提案をもらっているので、今後、グッドプラクティスとして水平展開を行っていきたいと思っている。

斉藤崇委員：町田市土木・公園サービスセンターについて気になったことがあった。数値が誤っていたということであれば仕方がない部分もあるかと思うが、把握できなかったということになると、適正に処理されているかどうか担保されなくなってしまうかと思う。把握できないというのはすごく怖いことなので、そこを、数値は把握できなかったけれども適正に処理されていたのかどうかも含めて確認したほうが良いと感じる。

松波委員長：把握されていないことが非常にまずい。適正に処理されていなかった可能性も出てくる。怖いことである。事務局、どうか。

事務局：適正に処理されていたかどうか、具体的な理由についても確認し、後日回答させていただきます。

屋委員：温室効果ガスのことで伺いたい。温室効果ガス削減量の目標は「町田市第4次環境配慮行動計画」に基づいて行っているとのことだが、菅首相が、2050年のカーボンニュートラル、また、2030年の13年度比の46パーセント削減を国として掲げた。今後の町田市としてのCO2排出量削減の構成や考えがあったら聞きたい。

事務局：「町田市第4次町田市環境配慮行動計画」が2017年度からの5年間ということで、今年度（2021年度）までの計画となっている。次期計画である「町田市第5次町田市環境配慮行動計画」をこれから策定するが、まだ検討中である。国の動きなどを踏まえて、今よりも引き上げた目標が必要だとは認識している。外部評価委員のみなさまからのご意見も踏まえて検討を進めていきたい。

屋委員：小田急電鉄も国に合わせて脱炭素を掲げた。実態としてはかなりハードルが高い目標かと我々も認識している。一方で、地球温暖化というものも待ったなしの状況かと思うので、今後もその部分を検討いただきたい。

斎藤之良委員：27ページの排出係数について、ミツウロコ、日立造船の誤りがあったと思う。0.184と聞こえたが、間違いないか。

事務局：町田リサイクル文化センターが2020年度の3月より日立造船となり、排出係数は0.184、忠生市民センターほか10施設が2020年度の2月よりホープとなり、排出係数は0.378に修正させていただいた。会議終了後に、修正後

の資料を、メールなどで共有させていただきたい。

齋藤之良委員：供給事業者によって排出係数にかなりばらつきがある。今後、CO₂の排出に関して、かなり排出係数頼りの傾向になっていくのだろうか。今年10パーセント減った理由として、新型コロナウイルス感染症の影響での施設の休館などがあつたが、来年以降そこは増えていくので、今後の戦略としてはそういった排出係数の部分を中心にならざるを得ないかと思う。

事務局：25ページに電気使用量の合計値があるが、2019年度と2020年度を比較すると電気使用量自体はそこまで減っていないので、実際は休館や休校があつたのに対して、開館や開校中には換気をよくしなければいけなかったということもあり、電気使用量はあまり減っていない。そういった点からみても、今回排出量が減つたのは排出係数の影響が大きいと考えられる。そのため、今後も排出係数の部分で排出量を下げる取り組みを行っていききたい。

松波委員長：排出係数について質問である。単純に、各電気事業者の排出係数が下がっているのは、再生可能エネルギーが理由なのか。

事務局：事業者によって電源構成が違い、再生可能エネルギーに寄るものもあればそうでないものもあるようで、排出係数が低いからといって必ずしも再生可能エネルギーを利用しているとは限らない。ただ、そうした中でもより低い排出係数の事業者を選んで契約を進めている状況である。

檜山委員：廃棄物が増加した主な原因はなにか。台風の影響を受けての増加か。

事務局：2020年度は大きな台風などはなかったもので、2020年度の廃棄物の増加に関しては気候災害などによって増えたということはないと考えられる。

松波委員長：廃棄物の増加については、町田市土木・公園サービスセンターの数値把握漏れと、鶴間公園リニューアルオープンによる廃棄物増加が原因ということではよろしいか。

事務局：それに加え教育センターの粗大ごみの増加も原因である。

松波委員長：教育センターは改修工事があつたのか。

事務局：改修工事はなく、施設の中に保管していたものを2020年度の予算の中でまとめて廃棄したというのが2020年度だったということである。なにか大きな要因があつたということではなく、施設としてその年度の廃棄の判断を行ったために、廃棄物が増えた。

松波委員長：承知した。今まで溜めていたものを、たまたま2020年度にまとめて廃棄したということではよろしいか。

事務局：そうである。

連絡事項

－今後の外部評価委員会の流れについて、事務局から説明した。

松波委員長：資料 4 について、例年だとこのタイミングで評価も書いていたが、今回は 2 回目の外部評価委員会開催後に評価の記入をするということによろしいか。

事務局：今年度は、意見や質問記入いただき、それについて回答させていただき、第 2 回の外部評価委員会を迎えたいと考えている。そのあとに、評価を頂戴したい。

事務局：町田市土木・公園サービスセンターの廃棄物量の数値の誤りというのは、ご指摘いただいたように大変深刻な問題であると認識している。これについては、詳細を調査し、もしなんらかの懸念事項があるようであれば、次回の委員会にて対応策についても報告させていただきたい。

また、屋委員からいただいた CO2 の数値の件についても、国が出していることなので、そこまでの数値を出せるかの精査は必要だが、町田市もそれに倣い、他事業者の模範となれるよう、努力目標の数値となる可能性はあるが努力した数値にしたいと思っている。よろしく願いしたい。

松波委員長：それでは、これで今回の委員会を終了する。